

1. 調査概要

- 1) 工事名称 : 県立総合技術研究所林業技術センター三次高平施設・実験室兼倉庫新築工事ほか2件に伴う実施設計委託
- 2) 委託者 : 広島県
- 3) 受託者 : 有限会社元廣建築設計事務所
- 4) 対象施設 : 県立総合技術研究所林業技術センター三次高平施設・実験室兼倉庫
廃棄物焼却炉 (住所: 広島県三次市十日市町168)
- 5) 採取日 : 2022年11月11日
- 6) 調査内容 : 有害物含有の可能性がある試料採取及び分析
※ダイオキシン類分析・有害物質溶出試験(8項目)
- 7) 調査機関 : ○調査会社
株式会社コンステック広島支店
〒730-0043 広島市南区段原南1-3-53-8F
TEL : 082-236-6333

○ダイオキシン類分析機関
ユーロフィン日本環境株式会社
〒236-0003 神奈川県横浜市金沢区幸浦2-1-13
TEL : 045-780-3851
- 8) 調査方法 : ダイオキシン類

○分析方法 : 環境省告示第80号
「ダイオキシン類対策特別措置法施行規則第2条2項第1号の規定に基づき
環境大臣が定める方法」(H16.12.27)

・数値は乾燥試験中の濃度を示す。

・検査方法 : 厚生省告示第192号 高分解能ガスクロ的グラフ質量分析法
- 9) 採取位置 : 廃棄物焼却炉

2. 調査結果

2-1. ダイオキシン類濃度分析試験

結果一覧表 [県立総合技術研究所林業技術センター 廃棄物焼却炉]

○ダイオキシン類濃度分析試験

番号	試料名	試料採取場所	ダイオキシン類毒性等量 (ng-TEQ/g)	備考
No.1	燃えがら	廃棄物焼却炉	0.054	

[所見]

分析の結果、ダイオキシン類毒性等量：0.054ng-TEQ/gの含有が確認された。

よって、堆積物の除去作業に特別の対策は必要はないが、【ダイオキシン類ばく露防止対策要綱 第3 ばく露防止対策 (3) 発散源の湿潤化】にあるように、堆積物を湿潤化し除去を行い、保護具に関しても防じんマスク、必要により保護衣、保護メガネ等の着用を推奨する。

また、産業廃棄物の処分方法については、下記基準値に満たない結果となっている為、通常の産業廃棄物としての処分が可能である。

【特別管理産業廃棄物の判定基準】

ダイオキシン類を含むもの (燃えがら) 廃棄物焼却炉	3ng-TEQ/g
-------------------------------	-----------

※参考文献「廃棄物焼却炉に係るばいじん等に含まれるダイオキシン類の量の基準及び測定の方法に関する省令」(平成12年厚生省令第1号)

【廃棄物焼却施設関連作業におけるダイオキシン類ばく露防止対策要綱】(抜粋)

第1 趣旨

ダイオキシン類対策特別措置法施行令(平成11年政令第433号)別表第1第5号に掲げる廃棄物焼却炉を有する廃棄物の焼却施設(以下「廃棄物の焼却施設」という。)における焼却炉等の運転、点検等作業及び解体作業に従事する労働者のダイオキシン類へのばく露を未然に防止することが重要であることから、厚生労働省では、平成13年4月に労働安全衛生規則の一部を改正し、廃棄物の焼却施設におけるダイオキシン類へのばく露防止措置を規定したところである。

第3 ばく露防止対策

(3) 発散源の湿潤化

対象作業を行う事業者(第2の1の(2)の作業のみを行う事業者を除く。)は、労働安全衛生規則第592条の4に定めるところにより、作業場におけるダイオキシン類を含む物の発散源を湿潤な状態のものとしなければならないこと。ただし、当該発散源を湿潤な状態のものとすることが著しく困難なときは、この限りではないこと。

但し、上記所見はあくまでも一般的なものであり、最終的な判断は当該建物を管轄する労働基準監督署等諸官庁に確認を要する。

2-2. ダイオキシン溶出試験

○溶出試験結果一覧表

番号	試験品目	試料名	溶出試験結果	有害物質等の判定基準	備考
1	アルキル水銀化合物	灰 (燃え殻)	不検出	未検出	
2	カドミウム又はその化合物	灰 (燃え殻)	0.009 mg/L未満	0.009mg/L以下	
3	鉛又はその化合物	灰 (燃え殻)	0.01 mg/L未満	0.3mg/L以下	
4	六価クロム化合物	灰 (燃え殻)	0.02 mg/L未満	1.5mg/L以下	
5	ヒ素又はその化合物	灰 (燃え殻)	0.01 mg/L未満	0.3mg/L以下	
6	ポリ塩化ビフェニル	灰 (燃え殻)	0.0005 mg/L未満	0.003mg/L以下	
7	セレン又はその化合物	灰 (燃え殻)	0.01 mg/L未満	0.3mg/L以下	
8	1,4-ジオキサン	灰 (燃え殻)	0.05 mg/L未満	0.5mg/L以下	

[所見]

分析の結果、全ての品目において、有害物質等の判定基準内の数値であった。